

平成 28 年度 大学院共通科目 「国際インターンシップ」 公開報告書

人間総合科学研究科 スポーツ国際開発学共同専攻

博士前期 1 年 東 憲努

○課題名

「JAPAN SPORT COUNCIL¹在英拠点を活用した ON THE JOB PRACTICE」

○受け入れ先

JSC（日本スポーツ振興センター）在英拠点

○実施期間

2016/10/27-2016/11/27

→10/27-11/13：JSC ラフバラ拠点、11/14-11/27：JSC ロンドン拠点

○目的

- ・実践的に自身の専攻（スポーツ）と関連する仕事を通し、今後のキャリア形成及びより明確なビジョンの獲得を目指す
- ・現場で通用する語学力かつ、第二言語でのコミュニケーション能力を高める

○実施内容

本インターンでは、JSC ロンドン事務所と JSC ラフバラ事務所の 2 拠点を活用し活動を実施した。具体的内容として、ラフバラ拠点では「英国における地方自治体の SDP（Sport for Development and Peace）に関する取り組み事例調査」、ロンドン拠点では「WORLD RUGBY CONFERENCE AND EXHIBITION 参加及び報告」と「五輪公園訪問及び報告」を行なった。



コーチングについての
セッションの様子



ロンドン五輪公園にて
ボランティアの方々と

¹ JAPAN SPORT COUNCIL：以下 JSC と表記する

実施内容	英国における 地方自治体の SDP に 関する取り組み事例調査	WORLD RUGBY CONFERENCE AND EXHIBITION 参加及び報告	五輪公園 訪問及び報告
内容・成果	<p>以下 7 点の英国 SDP 事業（Crime 及び Intervention 部門）による効果を示す。スポーツ実施による①精神状態の安定、コーチング等の資格獲得による②専門的スキルの習得、スポーツを通じたコミュニティ連携による③社会的ネットワークの獲得、資格取得後に仕事に従事することによる④犯罪及び再犯からの辞去、働くことについて考える機会による⑤Employability の獲得、自信を持つことによる⑥ポジティブな変化の機会の提供、最後に前科者の社会復帰を社会が認める環境を作ることによる⑦更生機会の提供などが効果として認められていることがわかった。</p>	<p>ブースには、ラグビー関連アパレルブランドや、トレーニング機器メーカー、合宿招致のためのリゾート施設及び最新の IT 技術を駆使しミーティングを円滑にするデバイスを提供している会社が出店していた。</p> <p>ラグビー新市場開拓に関するセッションでは、スピード感がある市場開拓のためには W 杯及び五輪というメガイイベントの機会を生かしたプロモーションが鍵となる。そのためにも各国代表選手及びチームのレベルアップが急務であることがわかった。</p>	<p>ロンドン五輪は東ロンドンの再生をレガシーとして掲げていたが、五輪から 4 年たった現在でも多くの人が集まっている（五輪施設の活用やショッピングモールの利用など）。</p> <p>できるだけ五輪時のままの施設を維持しつつも維持費削減のために、縮小化した施設もある。</p> <p>ロンドン五輪の際に建てられたものと、それ以前からの建物で大きな格差があり雰囲気も異なる。</p> <p>ロンドン五輪時のボランティアの方が現在も五輪公園のボランティアとして生きがいを感じていた（ソフトレガシー）。</p>

○全体の成果

現地スタッフの仕事に対するプロフェッショナルな姿勢を間近で感じ、学ぶことができたことは本インターンでのかけがえのない経験となった。また、これまでは研究という自分の興味・関心がある事象に関して、より深く理解をすることだけを求めてきたが、それだけではなく個人目標が社会に貢献し得る活動でなければ意味がないことを学ぶことができた。

加えて、様々な形でスポーツと関わり仕事をしている方と関係を築けたこと、実際に第二言語を活用しインターンを経験できたことで中長期のビジョン及び自信を獲得ができた。